

年金教育について

家庭科教育における現状と課題

宮田恭子 早稲田大学高等学院 家庭科教諭
全国家庭科教育協会 常任理事

家庭科および家庭分野で扱っている領域

小学校 家庭科	中学校 技術・家庭科	高等学校	
		家庭基礎	家庭総合
A 家族・家庭生活	A 家族・家庭生活	A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉	A 人の一生と家族・ 家庭及び福祉
B 衣食住の生活	B 衣食住の生活	B 衣食住の生活の自立 と設計	B 衣食住の生活の科学 と文化
C 消費生活・環境	C 消費生活・環境	C 持続可能な消費生活 ・環境	C 持続可能な消費生活 ・環境
		D ホームプロジェクト と学校家庭クラブ活動	D ホームプロジェクト と学校家庭クラブ活動

高等学校家庭科の視点：「生活設計」

生涯を見通した「生活設計」

学習指導要領で、科目の「まとめ」だけでなく、
「導入」としても位置づけられた

2つの「生活設計」…家庭科では1が主流

1. 「自分が歩みたい人生を具体化し、長期、中期、短期の目標を立てていくこと」(東書より)
2. 「今後のライフプランを明確にし、そのために必要な資金を確保する」(実教より)

小中学校 家庭科での年金の位置づけ

小学校家庭科「C 消費生活・環境」

物や金銭の使い方と買い物

中学校技術・家庭科「C 消費生活・環境」

金銭の管理と購入（契約・販売方法・クレジット）・消費者の権利と責任

「年金」「社会保障」は登場せず

高校家庭科 学習指導要領

C 持続可能な消費生活・環境

(1) 生活における経済の計画

イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや**社会保障制度**などに関連付けて考察すること。

上記部分の解説「各ライフステージの特徴と課題，家族構成や収入・支出の変化，生涯の賃金や働き方，**社会保障制度**などに関連付けながら考えることができるようにする。また，将来を見通して，事故や病気，失業，災害などの不可避的なリスクや，**年金生活へのリスク**に備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようにする。」

(2018高校指導要領家庭解説「家庭基礎」部分より)

高校「家庭基礎」における年金教育の現状

現行の検定教科書では

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

(4) 高齢期の生活と福祉、(5)共生社会と福祉 に含まれていることが多い

多くの教員は

より実生活に根ざした学習にするために「**生活設計**」の中に位置づけたい。

年金を単なる制度ではなく、**リスクへの備えやライフプランニングの一部**として教えたい。

C 持続可能な消費生活・環境

(1)生活における経済の計画（家計・資産形成・リスクへの備え）

(2)消費行動と意思決定

...社会人間近なので、具体的な自分事としてとらえるような学習が必要

生徒の現状と家庭科教員の悩み

生徒が抱える年金制度への不信感

「どうせ自分たちの時代にはもらえないんでしょ」という声
「払っても損するだけじゃないの」という疑問

教員の悩みと直面する課題

単に制度を説明するだけでは、「**自分事**」として生徒に響かない
生徒が年金を「自分の未来の話」として実感して捉えるにはどうすれば良いか
限られた授業時間で何を優先して教えるか

例：高校「家庭基礎」...週2時×1年（約35回）←衣・食・住・家族・福祉・家計...
多様な将来に対応し、**人生を展望するためのツール**としての教材を期待